

魚一葉

クロウシノシタ

広義にはカレイ類に属する舌平目と総称される魚は世界の熱帯、温帯の浅海から深い砂地や砂泥底に約117種、なかには川に入って淡水に生息するものもある。我国では28種が知られている。形がサンダル、スリッパや舌に似ているので、英名でソール（足底）とかタングフィッシュ（舌魚）と呼ばれ、我国でも“牛の舌”，“舌平目”などと呼ばれているが、種類によって両目が左側だったり、右側だったりとなっている。稚魚が生まれて20日前後までは左右に眼が、胸鰭もあって水面近くを泳いでいるが、変態が始まると、一方の目が引越し、胸鰭も小さくなるか消失して底生生活に移る。

このウシノシタは目が左側、3本の側線が走り、胸鰭がない。黄褐色から暗色の体色、鰭の先が白色で縁取られている。背鰭と臀鰭が尾鰭と連続した30cm位の細長い楕円形である。変態時右目が移ると、その上部が前方に伸び、さらに腹側に鉤状に湾曲して口を囲むようになる。口唇には触毛状突起が並ぶ。昼は砂に潜っているが、夜間鰭を波状に動かし、海底を這い廻って餌を探す。小えび、かに、貝、ゴカイ、小魚の動きを、頭の裏に発達した触毛、鋭い嗅覚、側線で感知、急に頭を上げ、裏側で餌を海底に叩き付けて、砂と一緒に呑み込む。北海道から南の沿岸に分布するが、他の仲間より多くない。舌平目類は底曳き、定置で漁獲される。フライ、煮付け、バター焼き、ムニエルなどにすると美味である。

(T・H)

